

2018年3月期 決算説明会

2018年 6月 21日

 日本山村硝子株式会社

目次

I 2018年3月期 連結業績概要

II 中期経営計画進捗状況

III トピックス

目次

I 2018年3月期 連結業績概要

II 中期経営計画進捗状況

III トピックス

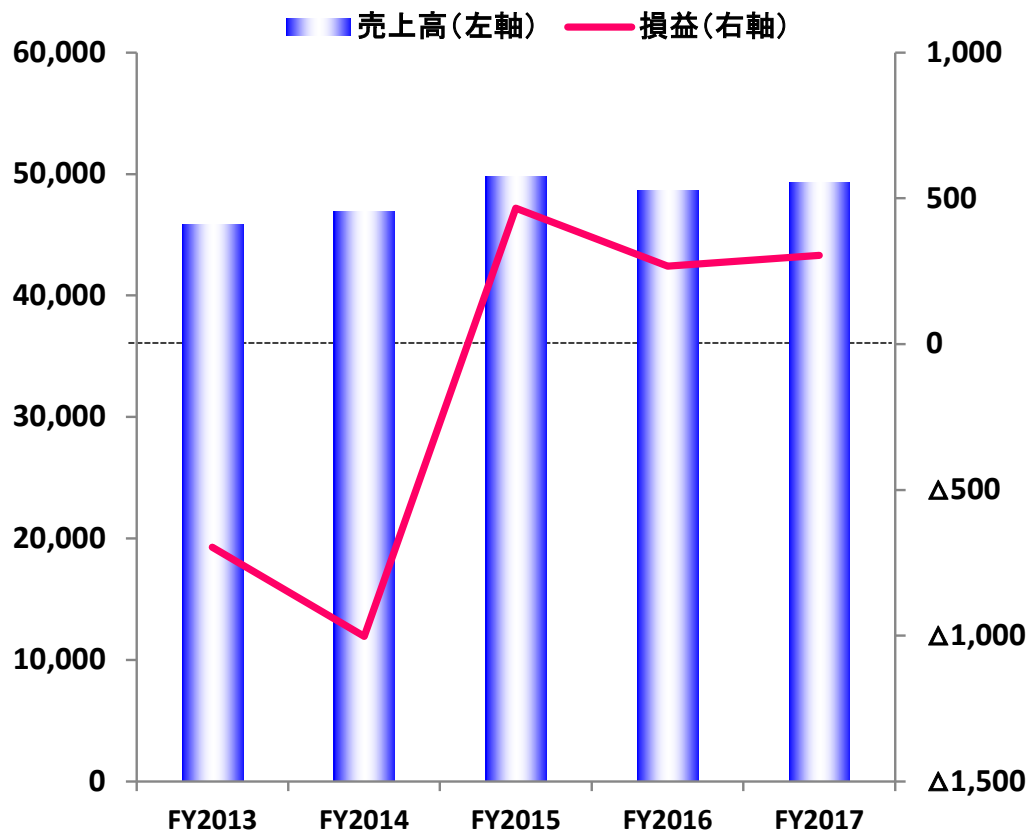
連結決算ハイライト

百万円	2016年度	2017年度	増減額	増減率
売上高	68,772	70,360	+1,587	+2.3%
売上総利益	13,683	13,400	△282	△2.1%
営業利益	1,433	1,284	△148	△10.4%
経常利益	1,880	2,168	+288	+15.3%
親会社株主帰属 当期純利益	1,416	130	△1,286	△90.8%

- ガラスびんセグメント、物流セグメントを中心に、全セグメントで増収達成
- 営業利益は減益となったが、2016年度に発生した海外における環境負担金等がなくなり、また持分法損益も増加したことから経常利益は増益を達成。しかし、中国ガラスびん子会社（YGQ）の、のれんを一括償却した影響が大きく、当期純利益は大幅減益 4

ガラスびんセグメント

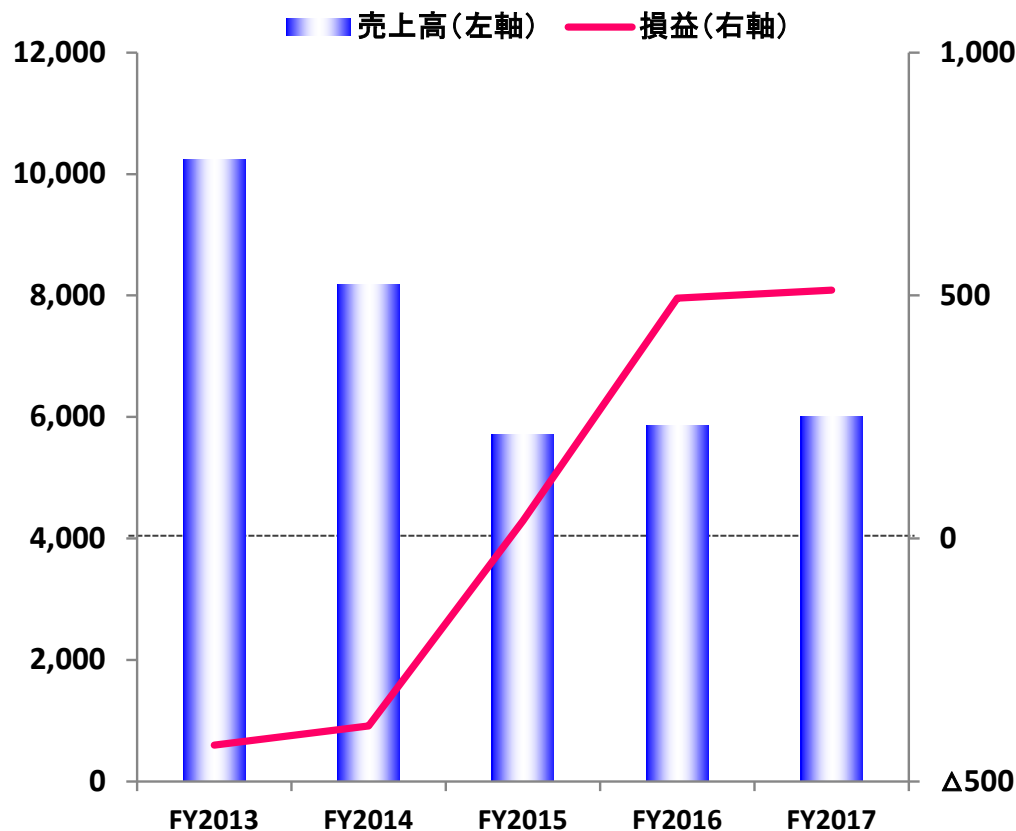
百万円	2016年度	2017年度	(増減額)	(増減率)
売上高	48,648	49,282	+634	+1.3%
セグメント損益	267	305	+37	+14.0%



- YGQ及びエンジニアリングカンパニーの海外向け販売好調で増収
- 国内燃料価格の上昇や販売の品種構成による利益率低下はあったものの、増収効果に加え、修繕費等の費用減により増益

プラスチックセグメント

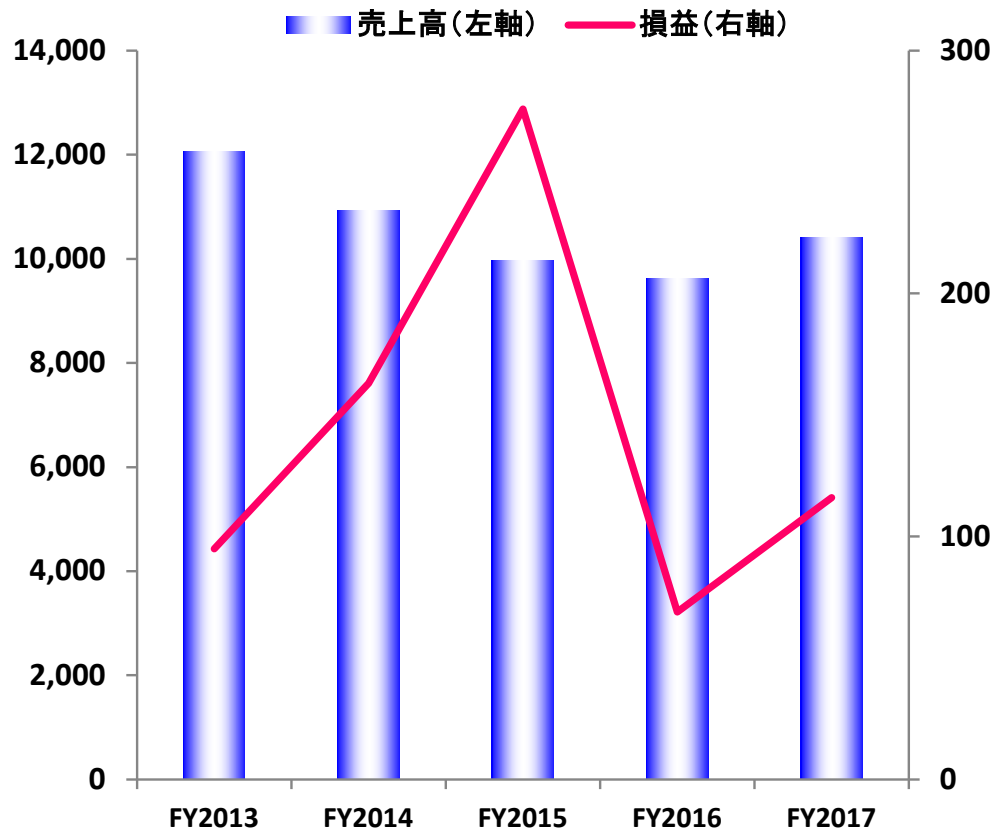
百万円	2016年度	2017年度	(増減額)	(増減率)
売上高	5,856	5,999	+143	+2.4%
セグメント損益	495	511	+15	+3.2%



- 国内飲料用キャップが好調に推移し、増収
- 損益も増収効果により、増益を達成

物流セグメント

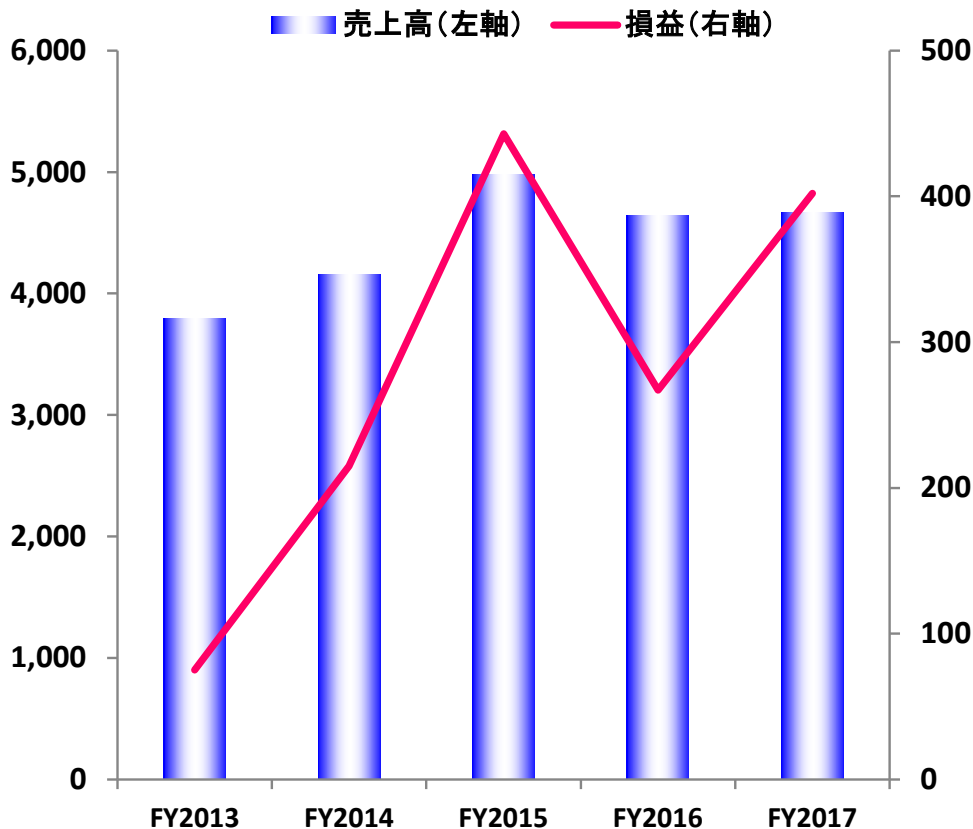
百万円	2016年度	2017年度	(増減額)	(増減率)
売上高	9,625	10,407	+782	+8.1%
セグメント損益	69	116	+46	+67.6%



- 新規事業の立ち上げ等により、大きく増収
- 人材確保のための労務費増等があったものの、不採算営業所の閉所や取引条件の改定、作業効率の改善や配送コストの削減により増益

ニューガラスセグメント

百万円	2016年度	2017年度	(増減額)	(増減率)
売上高	4,642	4,669	+26	+0.6%
セグメント損益	267	402	+134	+50.4%



- 太陽電池用ガラス、電子部品用ガラス、自動車部品用ガラスが堅調に推移し増収
- 増収効果に加え、製造経費削減効果もあり増益

連結貸借対照表－資産の部

	2016年度末	2017年度末	(増減額)
流動資産	45,869	45,399	△470
現金及び預金	14,374	13,610	△763
受取手形及び売掛金	19,959	20,136	+177
たな卸資産	9,935	10,293	+358
その他	1,687	1,446	△240
貸倒引当金	△85	△87	△1
固定資産	61,743	61,279	△463
有形固定資産	31,651	32,708	<u>+1,057</u> ← ガラスびんセグメント における設備更新
無形固定資産	3,263	1,712	<u>△1,551</u> ← YGQに係るのれん を一括償却
投資その他の資産	26,828	26,858	+30
投資有価証券	4,805	4,744	△61
関係会社株式	20,493	20,566	+73
その他	1,556	1,573	+17
貸倒引当金	△26	△25	+0
資産合計	107,613	106,679	△933

連結貸借対照表－負債・純資産の部

	2016年度末	2017年度末	(増減額)
流動負債	25,705	22,659	△3,046
支払手形及び買掛金	7,962	9,220	+1,257
短期有利子負債	11,397	7,735	<u>△3,663</u>
その他	6,346	5,704	△641
固定負債	23,504	26,390	+2,885
長期有利子負債	17,954	21,033	<u>+3,079</u>
その他	5,550	5,357	△193
負債合計	49,209	49,049	△160
株主資本	58,068	57,672	△396
資本金	14,074	14,074	0
資本剰余金	16,697	16,697	0
利益剰余金	28,528	28,134	△394
自己株式	△1,232	△1,234	△1
その他の包括利益累計額	276	△105	△382
非支配株主持分	58	63	+4
純資産合計	58,403	57,629	△773
負債・純資産合計	107,613	106,679	△933

有利子負債
△583

目次

I 2018年3月期 連結業績概要

II 中期経営計画進捗状況

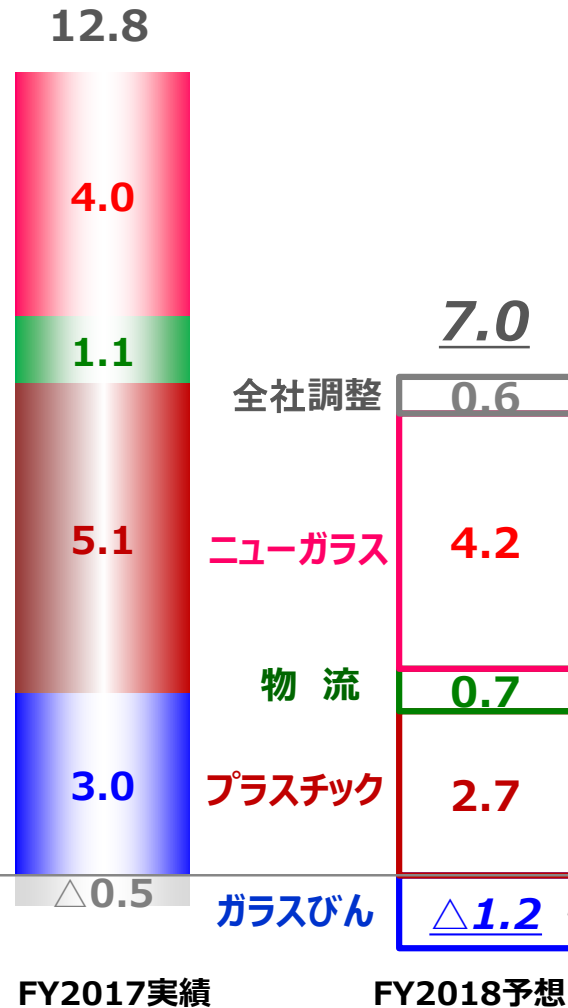
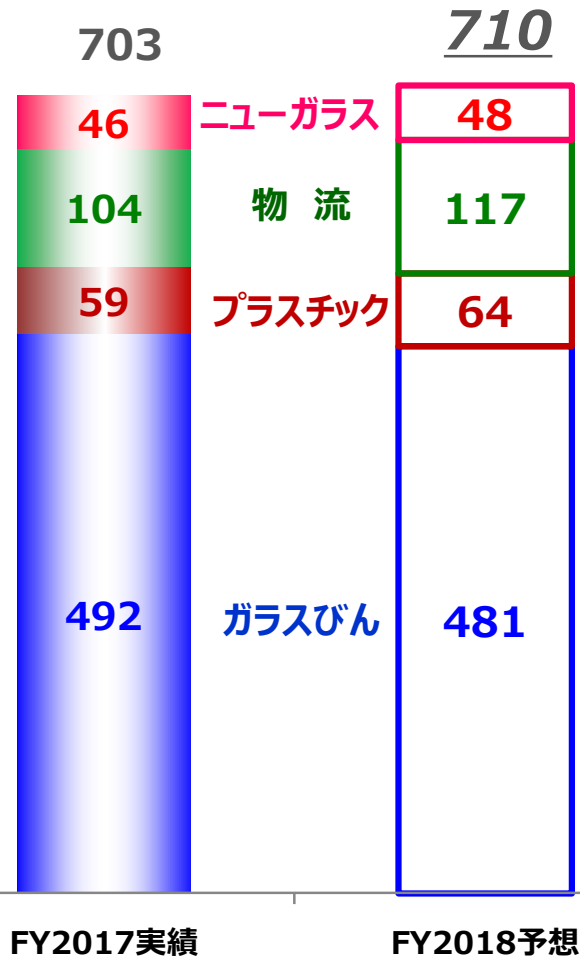
III トピックス

セグメント別売上高、損益

連結売上高

連結営業利益

(億円)



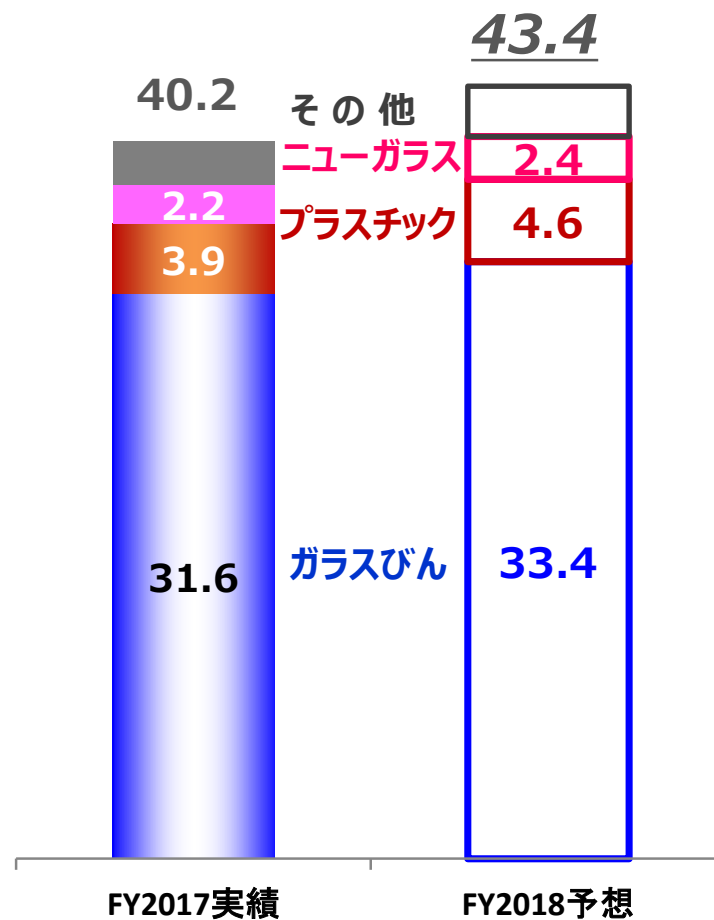
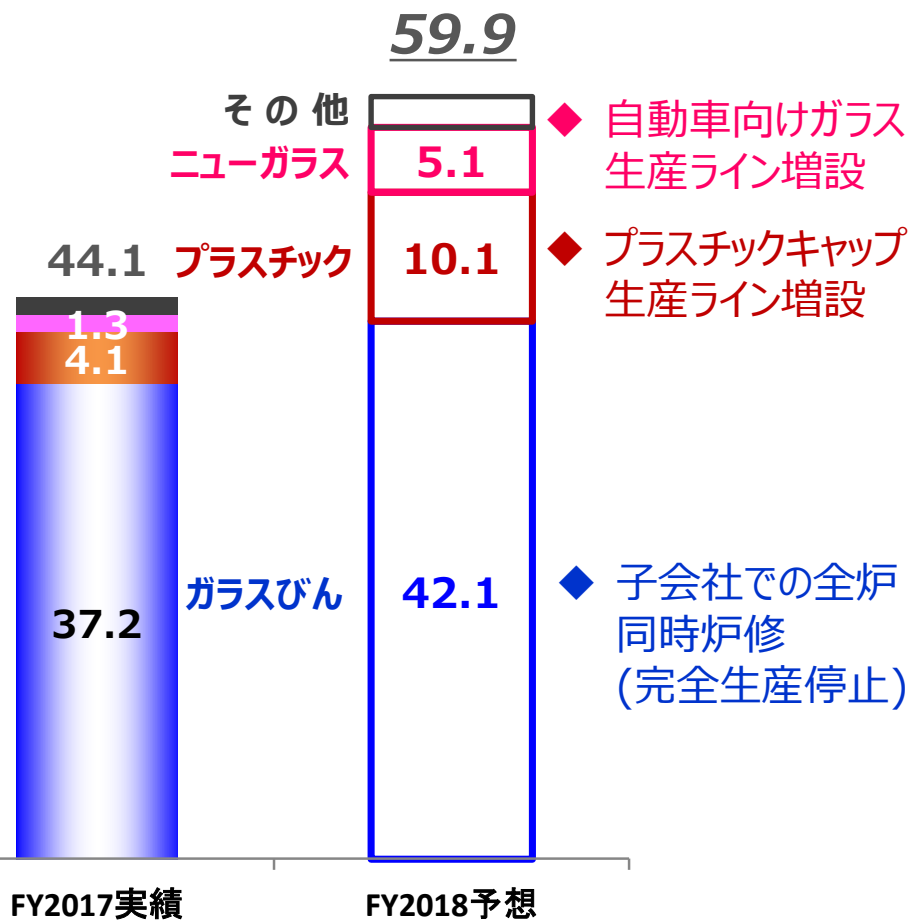
- ◆ 子会社での全炉同時炉修 (期間中は完全生産停止)
- ◆ 生産・販売減、原燃料等資材@上昇

セグメント別設備投資、減価償却費

(億円)

設備投資

減価償却費※



※リース償却費を除く

経営指標 — 総資産経常利益率 —



《今後の方針》

- 設備投資実施基準の運用継続、グループ全体でより投資効果の高い案件を優先
- 低収益・不稼働資産の売却推進
- 運転資本の削減を推進

経営指標 —売上高営業利益率(国内)—

経営方針	経営指標	進捗状況
<p>パッケージング事業の収益力強化</p>	<p>売上高営業利益率 ⇒FY2019目標 <u>(国内) 3%</u></p>	<p>【FY2017実績】 <u>国内：2.8%</u></p>

《今後の方針》

- 堅調なプラスチック事業はライン増設等、拡売に注力
- 収益力が低下しているガラスびん事業は以下の収益改善策を継続
 - ・ 省人化技術の開発に注力
 - ・ ガラスびんの販売単価も事業継続可能な水準へと見直しを継続

省人化技術への取り組み(当社ガラスびんカンパニー)

- 製造ラインにおける省人化の推進
- 益々深刻化しつつある人手不足への対応

各工程にロボットを試験的に導入、
本格的な実用化に向け、現在検証中

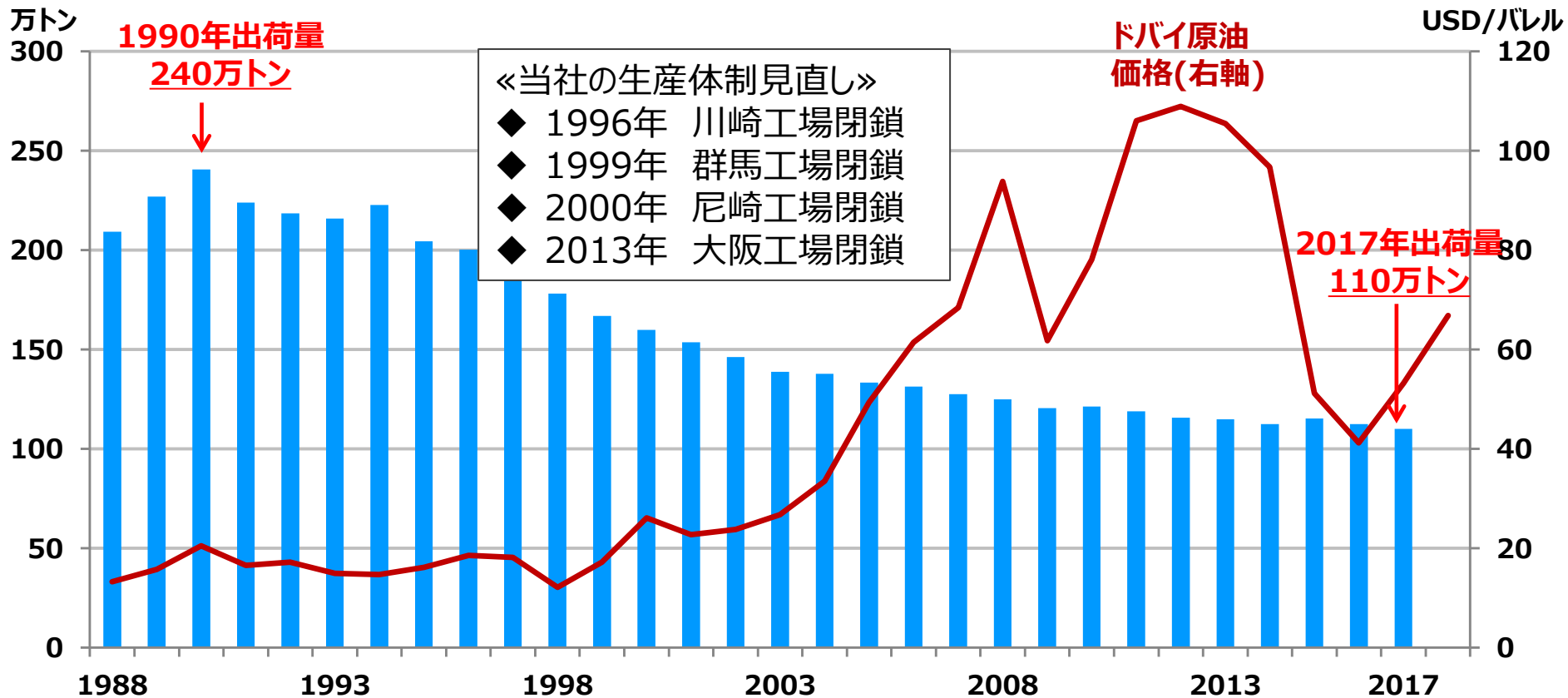
【ロボットパレタイザー】
カートン入りのガラスびん製品
をパレットに自動で積み替え



【塗油ロボット】
ガラスびんの成形時の金型
への塗油作業を自動で実施

国内ガラスびん販売単価について

【国内ガラスびん市場の出荷量推移】



- 2017年の出荷量は110万トン（1990年のピーク時の半分以下）
⇒これまでも生産能力の削減を行ってきたが、生産単位当たりのコストは上昇の一途
⇒さらに資材単価・外注人件費・物流費も上昇傾向
- 事業継続のためには、製造コストを踏まえた適正単価への見直しが必須

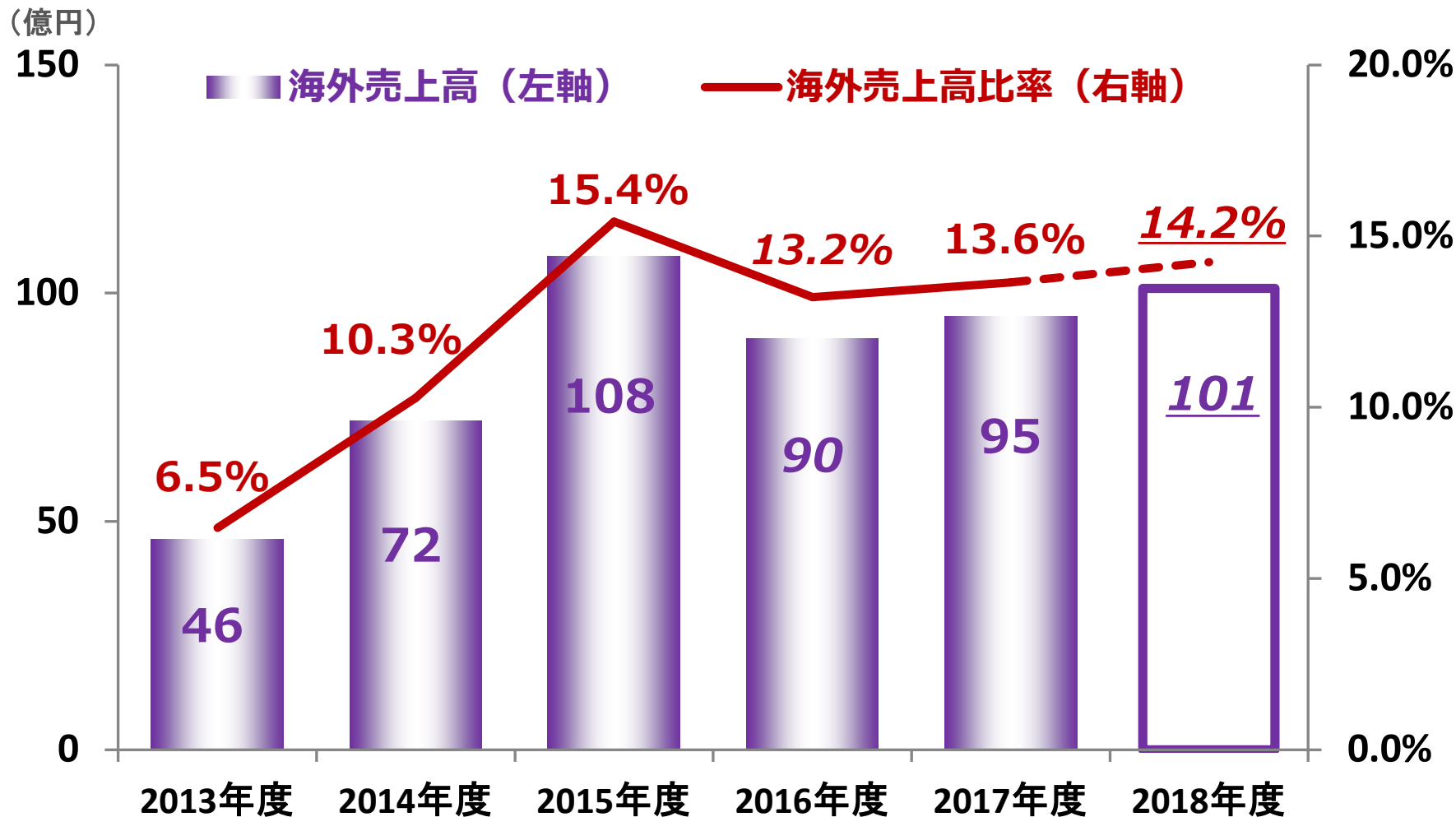
経営指標 —売上高営業利益率(海外)—

経営方針	経営指標	進捗状況
<p>パッケージング事業の収益力強化</p>	<p>売上高営業利益率 ⇒FY2019目標 <u>(海外) 5%</u></p>	<p>中国ガラスびん子会社であるYGQにおいて、買収時は想定されなかった中国における環境規制の強化等があり、損益は計画を大幅に下回った</p>

《今後の方針》

- 事業環境が好転する兆しはなく、「5%」の目標は達成困難であるため、目標値は取り下げ
- 現在の事業環境を前提に、コスト構造及び販売戦略の見直しを早急に行う

(参考)海外売上高比率 ー全セグメントー



グループ全体の海外事業は堅調に伸長

「海外売上高」：日本からの輸出 及び 日本国外における売上

経営指標 ー売上高年平均成長率ー

経営方針	経営指標	進捗状況
ニューガラス事業の拡大	売上高年平均成長率 ⇒ <u>10%</u>	【FY2016-FY2017実績】 <u>+0.6%</u>

《今後の方針》

- 既存製品のライン増設・拡売
- 新たに設立する合併会社 2 社の立ち上げに注力

ニューガラス事業の拡大① —光通信分野—

《通信レンズキャップ市場》

長距離通信

アメリカ

海底ケーブル

海底中継器

日本

都市間・都市内通信

基地局

アクセス網



オフィス
(LAN)



データセンタ



加入者
(FTTH)



通信事業者
(携帯電話)

非球面レンズ

- ✓ 大容量・高速通信向け
- ✓ 当社グループとして製品群の開発・強化が急務

非球面レンズに強みを持つ、
台湾KINIK社との
合併会社設立を決議

ボールレンズ他
⇒山村フォトニクス

ニューガラス事業の拡大① —光通信分野—

合併会社概要

名称	台湾山村光學股份有限公司 (YAMAMURA KINIK OPTICAL.,CO LTD)
所在地	台湾 30352新竹縣湖口鄉 新竹工業區文化路6號
代表者	未定 (董事長及び総経理は当社が指名)
事業内容	光通信市場向けレンズキャップの生産 および販売
資本金	30百万台湾ドル (約111百万円)
出資比率	当社 70% KINIK社 30%
事業開始	2018年7月

合併相手概要

名称	中國砂輪企業股份有限公司 (KINIK COMPANY)
所在地	台湾 新北市鶯歌区中山路64号
代表者	董事長 林陳滿麗
事業内容	加工研磨事業、ダイヤモンド研削砥石 事業、半導体ウエハー再生事業、 <u>光学 レンズ事業</u>
事業内容	«2017年12月期実績» 売上高 4,525百万台湾ドル 営業利益 885百万台湾ドル 当期純利益 732百万台湾ドル (台湾証券取引所上場)

- ◆ 2018年7月に合併会社設立、営業・製品開発業務等を開始。
- ◆ 生産に関する許認可取得後の2019年1月を目途に生産開始。

ニューガラス事業の拡大② ー半導体分野ー

合併会社概要

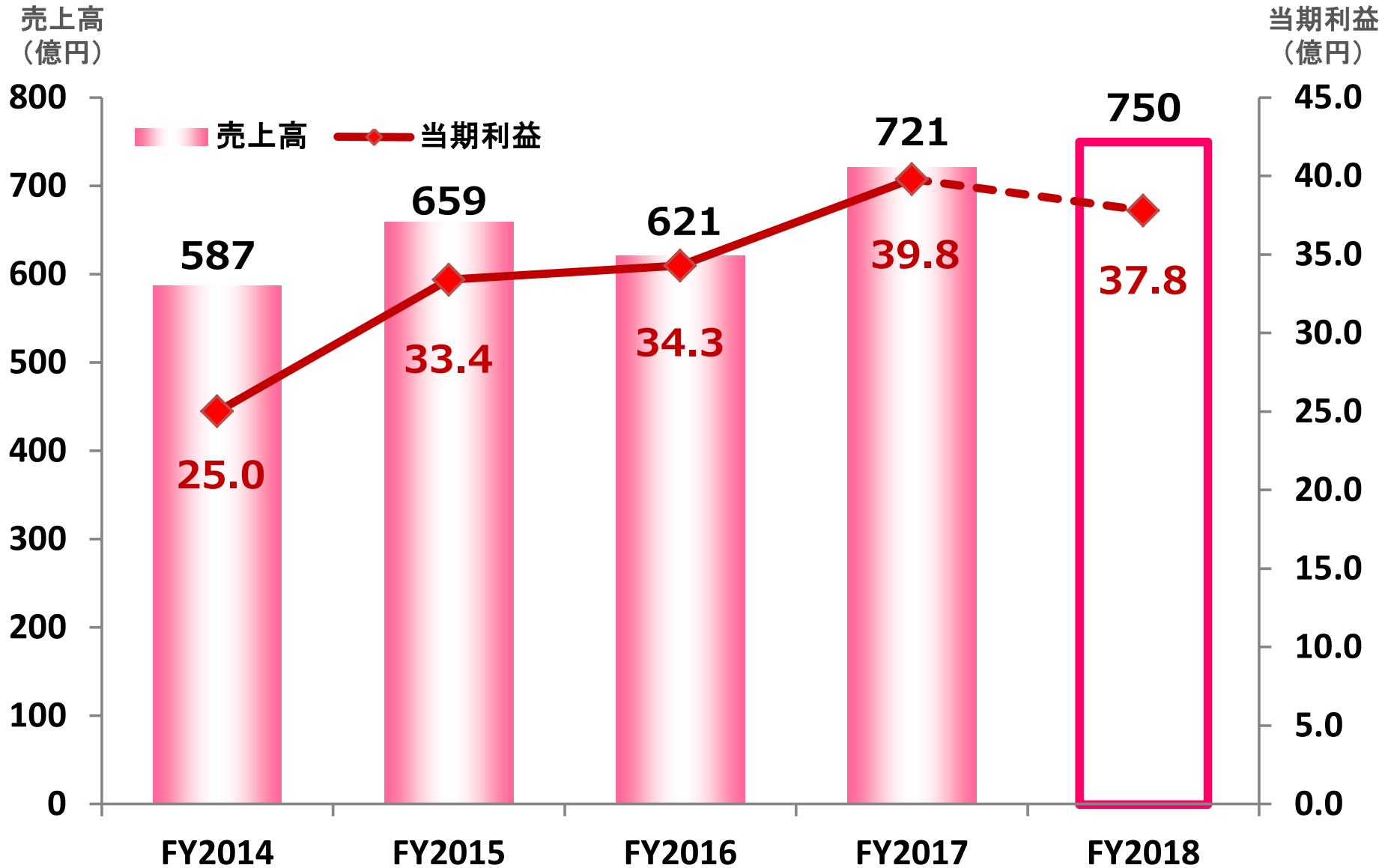
名称	株式会社ワイティエフ
所在地	兵庫県尼崎市西向島町 1 1 1
代表者	(未定)
事業内容	機能性フィルター事業
資本金	100百万円
出資比率	当社 5 1 % トウチュウ社 4 9 %
事業開始	2018年7月

合併相手概要

名称	株式会社トウチュウ
所在地	愛知県知多郡美浜町大字野間字中新田5番地
代表者	取締役社長 森田勉司
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・鋳物用天然珪砂、RCS、鋳物用材料他 ・ガラス/窯業用珪砂、窯業用材料の製造販売他 ・耐熱/ステン鋼品、アルミダイカスト品の製造販売、及び鋳造品の機械加工、組立他
	«2017年3月期実績» 売上高 222億6,753万円

- ◆ 2018年7月に合併会社設立、参入準備を開始（大型機の発注等）
- ◆ 2019年8月を目途に、大型機の稼働を開始、本格的に事業参入

(ご参考)海外関係会社※業績推移



※海外関係会社 : 海外非連結子会社 及び 海外関連会社

目次

I 2018年3月期 連結業績概要

II 中期経営計画進捗状況

III トピックス

WORLDSTAR2018を受賞

従来の500mlビールびんより20%軽く設計されたセラミックコーティング付きリターナブルびん「RC500DC」が、世界包装機構（WPO）が主催する世界的なパッケージコンテストであるワールドスターコンテストにおいて、「WORLDSTAR2018」を受賞しました。今回の受賞は麒麟株式会社様と当社の共同受賞です。

このコンテストは、世界各国の包装容器について、使いやすさやデザイン、環境配慮などを競いながら優れたパッケージの技術を普及させることを目的としています。



従来びん・軽量びん

肉厚比較写真（断面）

「Oisix 農家・オブザイヤー」銀賞及び銅賞を連続受賞

当社植物工場において、オイシックスドット大地株式会社主催の「農家（ノーカー）・オブザイヤー」※で、当社生産の「かがやケール」が2016-2017において銀賞を、続く2017-2018では、サプライヤー数が大幅増（2,700軒超）となる中で、銅賞を連続受賞いたしました。

※全国の農家の中から、最も多くの消費者に感動を与えた農家が表彰されるイベントです。



2016-2017 銀賞



2017-2018 銅賞

「きらきらベジ」販売開始


当社では、植物工場において生産された野菜をブランド野菜として広めていくため、「きらきらベジ」として商標登録を行いました。

商品コンセプトは「**思わず手をのぼしてしまうほどおいしい野菜**」


ブランドマークはその「**証し**」です。


2018/5/22から、阪神百貨店 梅田本店 地階野菜売場「よねしま」にて、「きらきらベジ」の販売を開始しました。
ぜひご賞味ください。


きらきらベジ 商品コンセプト



「きらきらベジ」マークは「思わず手をのぼしてしまうほどおいしい野菜」の証し

- 

◆きらきらベジは日本山村硝子が照明メーカーと共同開発した、独自の高性能LED照明の下で育ちます。野菜が作られる環境は、技術力と管理技術が行き届き「きらきら」しています。
- 

◆きらきらベジは多くの栽培実績から導かれた最適な環境で育ち、高い栄養価を誇ります。食べた人の身体に「きらきら」した美と健康のもとを届けます。
- 

◆きらきらベジは衛生的な環境で育つため、細菌の数が少なく長持ちします。新鮮でクリーンな「きらきら」した状態を、長い時間保つことができます。

心と技術を伝えたい。
日本山村硝子の思いと技術が詰まったきらきら野菜…それが「きらきらベジ」です。

関西プラントで太陽光発電設備を導入

プラスチックカンパニー関西プラントにおいて太陽光発電設備を設置し、2月22日に竣工式が行われました。



設備は太陽光パネル3,744枚、合計1,030kWの発電能力を持ち、平成29年度二酸化炭素排出対策事業費補助金（再生可能エネルギー電気・熱自立的普及促進事業）の事業では最大規模の案件となります。

関西プラントの電力使用量の約12.6%にあたる量の発電を見込んでいます。




太陽光発電の取り組み

当社は時代の要請に応え、再生可能エネルギーである太陽光発電設備を積極的に導入してきました。

	プラスチックカンパニー 宇都宮プラント	ガラスびんカンパニー 埼玉工場	ニューガラスカンパニー 尼崎プラント (植物工場)	プラスチックカンパニー 関西プラント
稼働	2013年4月	2014年3月	2017年1月	2018年3月
発電容量	581kW	2400kW	272kW	1030kW
モジュールメーカー	ソーラーフロンティア	シャープ	京セラ	京セラ
事業形態	全量買取	屋根賃貸	自家消費	自家消費
初年度想定発電量	600,000kWh	2,389,000kWh	280,000kWh (使用量の約12%)	1,102,000kWh (使用量の約12%)
投資回収(見込)	8.9年		8.6年	8.2年
				

環境コミュニケーション大賞優良賞を受賞

環境省が主催する「第21回環境コミュニケーション大賞」の表彰式が2月21日に品川プリンスホテルで行われ、当社は優良賞を受賞しました。2年ぶり2回目の受賞となりました。

当社の環境負荷低減への継続的な活動と新しい試み、そして基礎的な内容を含む情報開示として読みやすくまとまっていることが評価されました。「コミュニケーションブック2017」は弊社Webサイトにてダウンロードいただけます。  <http://www.yamamura.co.jp/csr/report.html>



Heart & Technology

 日本山村硝子株式会社

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記載は、当社が本資料発表日現在において入手している情報及び合理的であると判断される一定の前提に基づいており、当社としてその実現を保証するものではなく、実際の業績はさまざまな要因により大きく異なる可能性があります。